

MONTHLY MAGAZINE KOBEKKO APRIL 1961 NO. 2

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子



4月号

K.Tanuma

HILLMAN MINX

Hi Style



兵庫いすゞモーター株式会社

神戸市葺合区雲井通4の15

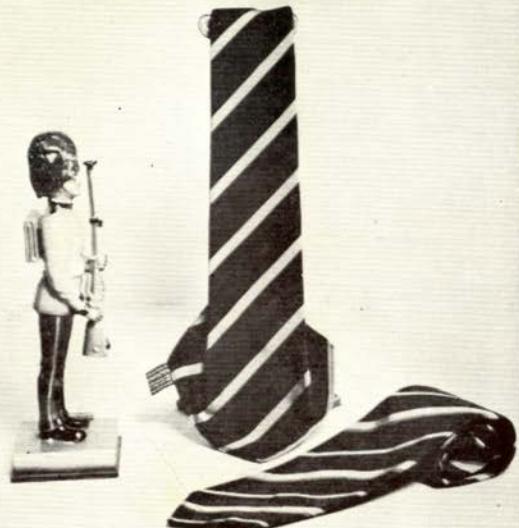
TEL(代表) ② 4751・6121

■芦屋ゴルフ場にて

これは神戸を愛する人々の手帖です
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です







ネクタイの
元町バザー
神戸 × 元町



 **北村パール**

北村眞珠株式會社

神戸／元町2・東京／スキヤ橋センター
TEL・③ 0072 (571) 8032



四月 目次

PHOTO／神戸の女性・衣川宏	1	25 写真特集／ボクも神戸っ子・竹崎譲司
神戸っ子放談／幼き日の想い出・岡崎真一	4	29 座談会／ハイ・センス神戸・福富芳美ほか
随想／ひなげし・亀高文子	6	31 オシヤレのメモ・北上弥太郎
ピカソ・小倉敬二	7	33 神戸とわたし・木田よし子
ホームスケッチ／榎並正一氏とその家族	8	34 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
随想／神戸と万才・秋田実	10	38 特集・世界一うまい神戸の中華料理
随想／僕の愛する神戸・朝比奈隆	13	44 洋酒はなしのたね
一つの思い出・山口清介	14	45 BONSOIR' MADAME
母のやっていた店・藤本義一	14	46 一店紹介・サノヘ
男性の心理・青木重雄	15	47 連載小説第1回／波止場・細野耕三
連載「ここに神戸がある」 ①ハイカラの伝統・司馬遼太郎	18	50 PINK CORNER
花時計・レリーフ／松井高男・伊藤誠	22	51 THE SECOND COVER

表紙／田村孝之介・カット／中西勝・写真／杉尾友士郎・米田定蔵・千原祐二・デザイン／橘昭三



幼き日の想い出

岡崎真一

神戸商工会議所の会頭室には、神戸つ子画伯小松益喜氏の力作、「英三番館（五十号）」がかけられ、にぶく光っている。

岡崎真一氏は、いうまでもなく国政に参与する人、百戦の英雄らしき貴録は十分だが、今日ばかりは、ユニークな神戸つ子スタイル、千田是也ぼりの童顔をほころばして、「今日は難かしい話はなしにして、神戸つ子になつてしまふよ」といしながら話された。

幼なき日の諏訪山

海と山が神戸を代表するんだが、その神戸で一番、神戸らしいのが諏訪山だと思っている。

あの諏訪山の中復西寄りに、赤い屋根の洋館があるだろ。あれが私の生れた家なんだ。親父が建てた家なんだが、今は飯野さんにお譲りして寮になつてるらしいんだがね。

小学校は諏訪山尋常小学校だよ、だから諏訪山界隈も想い出は懐かしいね。

忘られない開港場風景

そのころ鉄道はまだ、高架になつてないころだ。「一番の踏切」これが鯉川筋あたり、「二番の踏切」がモダンあたり、「間の踏切」が花隈のあたり、いまの花隈の治作の上あたりに社交クラブの神港俱楽部があつて、玉突場や特売場になつたり、音楽会もあつたりしてさかんだつたね。

あの辺には「ため池」がたくさんあつてね。ふきんに県立女学校や山手に頌栄幼稚園、その西あたりに、いまは小林に変わった神学校があつたりしてね。

当時、私の家近くに稻荷さんがあるだろ。寒中に、いま支那の人が、この稻荷さんに行列を作つて、あげ・おこ

わを手に、「施行、施行、ノーセギヨー」と唱えながらお詣りするのをよく見掛け、異様な印象として残つてゐるよ。稻荷はお狐さんだらう、商売の神様だから華商の人がお祭りしてたんだらうがね？

居留地風景

居留地あたりは、まず神戸の雰囲気がいちばん強く出でたよ、私もよく憶えているが、この画のトムソン商會、オリバー・エバンス、それぞれ各国の領事館等のしやれた洋館が並んでいて、外人がゆつたり散歩しているといった異国情緒は、私の青年時代の心に深くしみこんでいるような気がする。

戦災で焼けてしまつて、あのエキゾチックな味も消えてしまったようなものだ。いま残っているあのころの建物といえば日綿実業のビルぐらいのものだらう。

町全体として考えて見ても、神戸が開港場という名で栄えたこの名残といえは北野町あたりだらうな：また居留地という雰囲気がこしらえ上げた神戸スタイルというのは確かに他にないようだ。洋服でも割合色彩の薄い、いわゆるバステル・カラーや替えズボンが似合う土地柄なのだ。東京あたりの黒っぽい洋服の多い土地柄と全然違うように思えるんだ。

の人が、力車英語で、"水を呉れ"を「ワター」とやつてゐる。とにかく、海外との連絡場所として活況を呈していたものである。力車英語といえば、現在の駐留軍相手のポン引英語とにたもので、人力車の車夫が盛んにやつてたもんだ。それにしても現在の神戸に、エキゾチックな風情が薄れて行くのは淋しい。またいままでと違つた神戸情緒を近代的なエキゾチズムを盛り上げたいものだね。

神戸を美しき玄関に

海外から見れば神戸は日本の玄関になる。神戸初めの印象がひいては、日本の印象になる訳だよ。

ちょうど県市そろつて、花いっぱい運動が展りひろげられ、花のある町にしようという運動は賛成だ。

私は今日も、ある集会で、「神戸を日本の玄関にふさわしい明るく楽しい町にみんな力をあわせよう」と提唱した。家庭の入口に立つたとき、その家に花があり、明るさがあればどんなにかいい印象を受ける。その為には、神戸の町をもつと明るくしなくてはいけない、街路に灯があれば市全体がもつと明かるくなるだろう。

神戸を愛する人々がみんな明るい楽しい町づくりに参加してこそ、美しい日本の玄関が生まれることになるだろ

(文責 小泉康夫)



神戸商工会議所会頭室で語る岡崎真一氏

参議院議員・神戸商工会議所会頭

同和火災海上K.K.社長

神戸国際会館K.K.社長

ひなげし

洋画家／亀高文子

毎年、春の彼岸ともなれば、私の庭は百花の園ともいえる美しさになる。

しかし今年は、あのきびしきつた寒さのために庭の花のつぼみは固い。木蓮も、山吹も、ミモザも木瓜（ボケ）も、いつ咲くとも知れぬ固さである。

せめて草の花でも咲いていいかと、さがし求めながら庭を眺めていると、ハツと赤いものが目にしみる。近よって行くと、なんと“ひなげし”が一輪、真紅の花を春風におどらせていく。

ここに種子をまいた覚えは、私

ではない。去年の種子が、ここにこぼれ落ち、土深く埋まって、こうして咲いているのであろうか。

—その生活力のたくましさ

自然の恵みと愛撫—

今さらのように驚かされる。

春の太陽のもとに、手をいっぱい差し出しているように見える。

こうして私は、春ともなれば、何か草の芽は出でていないかと、庭中くるくると見てあるく。春浅く花にとほしき庭ながらこの一本のひなげしそぞあり描かんと絵筆とる手にひなげしひはくづれぬ春風とともに



ピカソ

小倉敬二



またまたピカソが結婚したらしい。

ピカソは当年七十九才。花嫁は三十九才だ。たいした精力である。ピカソは現代世界画壇における不滅の焰、不滅の光りである。常にエホルギッシュである。

ピカソといえば、一般にパブロ・ピカソで通っているが、実はパブロから始まって、ピカソに終るまでがたいへんだ。デイゴ・ホセ・フランスコ・ディパウラ……といつた調子で、親の名からおじいさんの名、母方の先祖の名まで読みこんである。一人名か、數人名か、戸惑うくらいである。だから恋人も十人で足らず、女房も三人ぐらいでは足らなかつたのであろう。先妻との間に二どもが二人ある。前の妻君もたしかモデルだった。若くつて美しくつて——こんどの奥さんも実に美しい。あのしやかな腰をピカソのあの毛深い逞ましい腕がぐつと力強く抱きあげるのだ。うらやましいな、などと下品なことを言つうものでない。

オールド・バアというウイスキーの商品名にまでなつたイギリスのバアじいさんは、人妻とよろめき、姦通罪で訴えられたが性力絶倫、百二十何才まで永生きした。青春とこしえに老い、といふんで、ウイスキーにその名を冠したのだろう。

禅の山本玄峰老師はことし九十五才だが、さいきん「無門関」の大著を出された。大道は無門、千差路ありだ。一芸一道に秀でた士は、道が違つていても、どこかにすぐれたところがあるんだろう。

ピカソは共産党員である。

かれが共産党入りをしたとき、ユマニテの記者が、「先生、画の方はどう變るでしようか」と聞いたところ、彼は、「靴屋さんが王党たろうと、共産党たろうと鉢の打ちかたには變りはないぢやないか」と言下に答えた。

ピカソはピカソだ。画はオレ独自のものだという強い信念からである。スター・リンが死んだとき、彼は党から頼まれてスター・リンの肖像を描いたが、例の調子で大胆奔放にやつつけたものだから、スター・リンの尊敵を冒詫したといって、クレムリンから叱られ、それに反撥して「バカもほどほどにしろ」としりをまくつたこともある。すさまじい意氣だ。彼は好んで鳩を画く。ハトは平和の象徴である。しかしピカソの描く鳩はいつも翼が折れたり、尾がちぎれたりしている。いわゆる「傷める鳩」だ。それは傷める平和にたいする抗議なのかもしれない。

春は家族そろつてドライブ

榎並正一氏とその家族

(阪東調査K・K副社長)

ご主人の榎並正一氏(49)は、諱訪山生まれの生粋の神戸っ子。

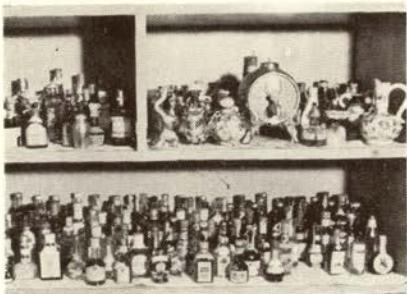
うまれてすぐ須磨離宮近くの桜木町の家に移つて、現在まで、学生生活の何年間を除了した他は全く神戸の人。

「今さら神戸を語るというわけにもいかんだろう。神戸は集みたいたんだからな……」

そうだな、いの家の少し上あたりに広場があつてよく野球をやつたもんだ。竹中郁さんもよく野球をやつてたよ。あの人、ちょっと変わったのが好きだから、みんなが黒の靴をはいているのに、たしか彼一人だけが赤い靴をはいてたよ……。僕より上だけ覚えてるよ」(笑)

学校は須磨浦小から三中、慶應のコースで、学生時代を過されてる。『ちょうど、広野ゴルフ場から帰えてきたばかりなんだが、ゴルフのことはあんまりいいたくないんだよ……』

なにしろ、ゴルフ歴ときたら途方もなく古いんだが、いつこうに腕の方がいっしょについてきてくれないんだ』とニッコリ笑われた精悍そうな顔つきに、笑いがはいつつくると途端に柔らかな人間



幸子夫人ご自慢の洋酒ミニイチュア



歓談される榎並正一氏夫妻

味のゆたかない顔になつてしまわれた。

幸子夫人(41)はすてきな近代美人「ゴルフにいっしょに出かけたころもあつたんですけど、私もあまり上手でないの、夫婦でゲームに出場するときはきまつてビリ」と笑つて話される。

ご主人も奥さんのご自慢は洋酒のミニイチュアだらうと、書棚にいづばい並んだミニイチュアを指して説明される。

「せんだつて、テレビで同じよう洋酒のミニイチュア収集家を紹介していたんだけど、その人のミニイチュアより多いので心配したんだよ」とご主人もテレビを見られてからだいぶ自信をもたれらしい。

幸子夫人にそのきつかけをききますと

「最初、外人の店の方から五六本いただいたミニイチュアを並べてあるうちに、だんだんふえていま一八〇本集まつてしまつたんですの」ということ。

「お子さんたちは一とお尋ねしたら、ご主人はご気軽に春休みで帰省中の長男、正三さん(20)と、お嬢さんの元子さん(15)のお二人を紹介してくださいました。正三さ



(写真左から正三君・幸子夫人・元子さん・榎並氏)

んは、慶應の経済学部の学生さんこんど二年に進級、立派な体躯はお父さんゆずり。元子さんは、小林の聖心女学院中学部の二年生にお兄さんとそろって進級。

ふつくらとした、上品で可愛いお嬢さん。お二人とも、明かるくて、くつたくなさそう。正三さんは、慶應で鉄道部に籍があり、車輛に関する知識は相当なもの：

「日本の車輛は狭軌では一流だけれど、いささかみみっちい」と批評もなさる。どうもお子さんたちにとつては、幸子夫人の方に少し点がいいようだ。ご主人は「それはドライブをしよつ中、いっしょにやっているからだらう」と逃げられた。

幸子夫人は、自分で運転されるオーナードライバーとしての経験も立派なものらしく、

正三さんが

「僕も運転はできるんだけど、お母さんの方がうんとうまい」と文句なしに賞讃を贈るあたり十分察しがつく、お嬢さんが「あっそうだ、ケリーを忘れていたわ。

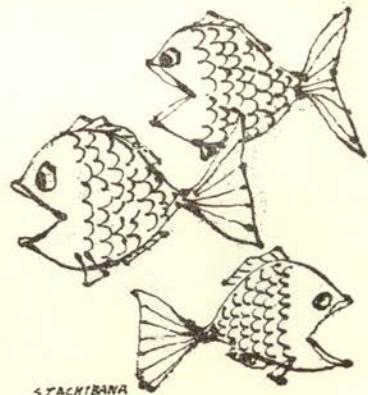
犬がいるの。ボクサーで一年と四ヶ月ほど、血統はアリトリース

ボクサーという犬は、随分愛敬のある犬だから、家族みんなに可愛がられているらしい。

榎並さんのご家族は、愛犬ケリーを含めて、健康で明かるい団欒を楽しんでいらっしゃるようでした。

神戸と漫才

秋田 実



STACHIBANA

漫才の発祥地は神戸である。発祥地と言うのも妙な言い方だが漫才は最初から今のような形ではなかった。

最初は、日露戦争の戦勝気分で盆踊りが例年より盛んに行なわれたその盆踊りの音頭だけが、踊りと切り離されて興業化されるようになつた。終戦後ののど自慢大会が盛んになつて行つた経路と似てい

るが、その音頭の興業がなかなかの人気で、音頭の代表は江州音頭りで江州音頭も後には河内音頭の「万歳」に合流するようになつたのである。

この二つの音頭の「興業」としての発祥地が、神戸の新開地なのである。

はじめは、いろいろの芸能の間に

混つての出演であったが、はじめからこのことで、漫才の歴史もそれ以来ということに普通なつてい

るが、実はもう十年前、日清戦争の終つた後で、この音頭の興業が新開地で行なわれてるのである。

そしてたちまち新開地で人気をあげはじめたが、その時は内容が余り卑猥に過ぎるというので、当局からの命令で興業が禁止になつてしまつたのである。それから十

年中断して日露戦争後である。その二つの音頭のうち、河内音頭は興業の主流であつたが、日露戦争の主流であつたが、日露戦争後には江州音頭の方

が興業の主流であつたが、日露戦争後には江州音頭の方

が興業の主流であつたが、日露戦争後には江州音頭の方

が興業の主流であつたが、日露戦争後には江州音頭の方

争後は河内音頭の「万歳」が中心

となり、「万歳」に江州音頭が合

流した。太夫と才藏の形式の中に

今日の漫才への発展性があつたの

であろう。今度は、新開地ででも

興業禁止を喰わないで、着々と新

しい娯楽としての人気を培つて行

つた。

神戸の香り
港の風味…

送ってもこわれない

ゴーフル

65年の伝統

マロン・グラッセ

ココアキャンデの突堤

コウベ・ピア

神戸・元町三



風月堂

創業 明治三十年

TEL. 神戸 (3) 695・696

金

柴田音吉洋服店



金

柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 (4) 0693

大阪・高麗橋二丁目 (23) 2106



高級紳士服地

ニッケ
リファインテックス

Mikimoto Pearls



春の優雅な装いに…
ミキモトパール



御木本真珠店

神戸店・神戸国際会館内 Tel. 2-0062

大阪店・新大阪ビルヂング内 Tel. 36-0220

本店・東京銀座四丁目 Tel. 535-4611